

東西医学の長所を高齡社会に生かす

Q 二十一世紀の医療における東洋医学の役割や展望についてどうお考えですか。

A わが国はかつて経験したことのない超高齢化社会となるため、現行の医療は大きく変わらざるを得ない。二十一世紀の医療は、①患者の生活の質（QOL）の向上を第一に考える、②医療経済的に無駄がない、③心と体を総合的にみる、④予防医学により重点をおく、⑤医療機関の機能役割分担を明確にする、ことが基本になるだろう。

実はこうした点は本来、東洋医学の特徴と言っても過言ではない。東洋医学では「元気が出る」「かぜをひかなくなる」「食欲が戻る」などQOLの向上をまず目指す。また漢方や鍼灸は医

療経済学的にみて、多くの病気において西洋医学より低コストであることがわかっている。

東洋医学では心身一如の立場をとる。従って心と体を分けず総合的に治すことはいうまでもない。また東洋医学が最も重視するのは、「未病（みびょう）を治す」といって西洋医学的病名がつく前に心身の不調和を改善することである。さらに東洋医学思想の根幹は、天恵たる命をいかに「その人らしく」花咲かせ、充実した生を全うさせるかにある。

このようにみると、二十一世紀はまさに東洋医学の時代ともいえる。医療の潮流は西洋医学と東洋医学が互いの長短を補完し、わが国の気候・風土にあった新たな伝統を切り開く方向に向かつていくことと思う。